

花巻市青少年郷土芸能フェスティバル2018

出演団体

(出演順)

1. 八重畑保育園 (石鳥谷町)

演目「田植え踊り」

八重畑保育園では、平成2年より八重畑田植え踊り保存会の指導のもと、田植え踊りに取り組み19年目を迎えました。

本日の踊りは「子踊り」と言い、田植えをする人々を励ます踊りです。5歳児11名、4歳児15名が出演します。

2. 下似内神楽 (宮野目)

演目「岩戸開」

下似内神楽は、胡四王神楽の弟子神楽として昭和24年より伝承活動を行っています。

「岩戸開」は、天の岩戸にお籠りな天照大神を神々が力を合わせ、岩戸の前で祝詞を奏し、手力男命(たちからおのみこと)が岩戸を引いて、天照大神をお迎えしたという物語です。

3. 亀ヶ森小学校 (大迫町)

演目「亀ヶ森さんさ踊り」

亀ヶ森さんさ踊りは、明治初期に紫波町彦部より亀ヶ森に嫁いで来た方が伝えたといわれています。

現在は、地区・小学校・保育園合同運動会、盆まつり、敬老会で披露して好評をいただいています。

4. 豊沢大念仏剣舞 (花巻)

演目「入羽(いりは)・17拍子・27拍子・37拍子・ 中入羽・7拍子・引羽(ひきは)」

豊沢大念仏剣舞は、弘安3年(1280年)石鳥谷町光林寺の開祖、宿阿(しゅくあ)上人が地元の人達に伝えたことが始まりとされています。

演目は7種類あり、笛や太鼓、刀などを使って踊ります。跳ねながら太鼓をたたく動作は、仏法のありがたさと喜びを表現しています。

5. 狼ヶ志田(おえなしだ)神楽 (奥州市)

演目「風流羽衣の巻」

狼ヶ志田神楽は、文久元年(1861年)胆沢町小山中沢地区より山伏神楽を伝えられ、その後、明治25年(1892年)萩荘村達古袋より三輪(みわ)流神楽(南部神楽)を伝授され現在に至っています。

「風流羽衣の巻」は、三保の松原を舞台とする漁師と天女の物語です。

6. 折沼田植踊り (太田)

演目「くわ踊り・あや踊り・手踊り・ 箕踊り・手拭い踊り」

折沼田植踊りの口上によると、源義経が牛若丸の時代に、命名したのが藤原秀衡であり、その秀衡の館に訪れた際にお祝いとして踊られたのがこの田植え踊りといわれています。

踊りは午前の部、午後の部に分かれ演目が22あります。

7. 上根子神楽 (湯口)

演目「三番叟」

上根子神楽は、明治3年(1870年)の神楽本が伝承されています。法印色が強く、流れるような優雅な舞を基調としています。

「三番叟」は、蛭子命(ひるこのみこと)が世の喜怒哀楽、艱難辛苦の様を舞ったものといわれています。

8. 北上翔南高校鬼剣舞部 (北上市)

演目「一番庭・刀剣舞の狂い・カニむくり・ 膳舞い・三番庭の狂い」

鬼剣舞は、北上地方の農民に伝承する民俗芸能で、約1300年前に始まったとされています。念仏によって人々を救い、ヘンパイという足踏みによって大地の悪霊を退散させ、天下泰平、五穀豊穡の祈りが込められています。

本校では鬼剣舞の伝承活動を国指定重要無形民俗文化財「岩崎鬼剣舞」からご指導いただき、85名で部活動として取り組んでいます。また、全国高等学校総合文化祭郷土芸能部門で、文部科学大臣賞1回、文化庁長官賞を3回受賞しました。

9. 花巻農業高校鹿踊り部

演目「一番庭」

花巻農業高校鹿踊り部は、「春日流落合鹿踊保存会」のご指導を仰ぎ、創設60年目を迎えました。この夏、長野県で開催された第42回全国高等学校総合文化祭郷土芸能部門において最優秀賞並びに文部科学大臣賞を受賞しました。

「一番庭」は、基本の踊りとされ、仲立ちと呼ばれる雄鹿の合図で群れの動作は変わります。神の使いの「鹿」になりきって踊ります。